

「憲法」を原点に戻って見直してみよう

はじめに

戦争は人間を滅ぼすことです。

世の中の良いものを壊すことです。

戦争はただ、怖い、悲しいことが

たくさん起こっただけでした。

そこで、今度こそ二度と戦争をしないように

武器や軍隊をもたない、よその国と争いごとが起こっても

話し合いで解決しよう、と決めました。

戦力を捨ててしまうのは、勇気のいることです。

決して心細く思うことはありません。

日本は正しいことを、ほかの国より先に行ったのです。

世の中に、正しいことぐらいい強いものはありません。

これは一九四七年に文部省が児童生徒用に作成した「あたらしい

憲法のはなし」の中で、憲法九条について書かれたものの一部です。

こんなに堂々と力強く戦争をしないと誓ったことは、長く苦しい

戦争を経て、日本がたどりついた希望の道です。

旭区「九条の会」は憲法九条を守り、平和に暮らせる国を未来に

残すことを願う人たちの集まりです。

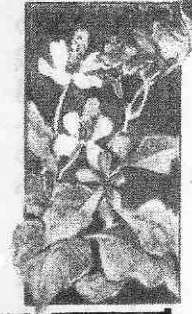
今、日本の動きに世界の目が集まっています。

このときに、「日本国憲法」を見つめたく、憲法手帳をお届けし

ます。

二〇一四年四月

旭区「九条の会」



武力で平和は築けない

これは今年4月、「横浜市旭区九条の会」が発行された『憲法手帳』の巻頭言です。また「下」の「憲法とは何か」の原点を分かり易く説明されています。

● 現在、安倍政権が行っている政策のことごとくが、人類の叡知に背き、この「憲法」の精神を無視した、いかに横暴で、矛盾だらけの、傍若無人なものかがよく分かります。

憲法とわたしたち

みなさんの願いは何でしょうか？
日々どんなことを思って過ごされていますか？

憲法という何か自分たちとかけ離れた思いがするかもしれませんが、でも、どんな人も幸せを願って自由に生きていいよ、と保障してくれるものが憲法です。国の主人公は私たち国民であり、国がしなければならないことや、してはならないこと、そのしくみなどが憲法に書かれてあります。みんなの自由と権利を国に守らせ、国家の権力を制限するものが憲法で、立憲主義といいます。

「日本国憲法」は民主主義の大切さが貫かれており、次の三つの柱からなります。

- 1、国民主権＝主権は国民にあり、国民が国の在り方を決める。(前文、第一条そして第四章～第八章)
- 2、平和主義＝恒久の平和を念願、戦争はしない、争いごとは武力ではなく話し合いで解決する(前文、第九条)
- 3、基本的人権の尊重＝国民は個人として尊重され、自由で平等であり、こうした権利をみんなが持っている。(前文、第三章そして第九七条)

「日本国憲法」は世界からも理想とされる憲法です。民主主義がうたわれた憲法を多くの人々が歓迎して誕生しました。どんな人も大切にされる存在です。お互いを認め合い、安心して楽しく生きていくことができる社会のために、憲法を見直してみよう。



(大きさは、たて十五、よこ十・五。装幀もカラフルで美しく、イラストも抜刷群りです。)

▲ 「憲法手帳」には、憲法全条が大きな文字で掲載されて読みやすく、イラストも大変すてきです。

○ この「憲法手帳」は「はらまち九条の会」発行の『憲法』復刻版を参考に作成されたそうです。ちょっと嬉しいお話です。

○ 横浜市旭区の「若葉台九条の会」会員17名は、昨年6月2日に南相馬市や浪江町請戸の被災の様子を視察され、市の震災遺児のために多大の支援金を寄せられています。(会報No.219で報告いたしました)

「憲法の九条守れ子や孫をかの戦場へゆかしむなゆめ」

＜双葉郡大熊町 吉田信雄さんの歌集『故郷喪失』より＞

○双葉郡大熊町夫沢の吉田信雄さん（「新アララギ」歌人・本会会員）の自宅は、事故の福島第一原発の南約1.5キロにあり、家族とともに会津若松市に避難されたままです。
○発刊された『歌集 故郷喪失』の中から、震災後に詠まれた歌を紹介いたします。

うづくまるべきかつかまるべきなのか震度7といふ地震にすべなく
大地震に部屋に馳すればわが父は崩るる書籍に埋もれてゐたり
父母もゐる孫たちもゐる息子らは帰らず終夜余震にをののく
自衛隊のトラックに乗りて板の椅子に飛び撥ねながら避難所に行く
帰りたくも家なき人あり家ありて帰れぬ人あり避難民われら
避難所に真夜を醒むれば行く末を思ひ思ひて眼の冴えにけり
「捜したぞ生きていたか」と遠く住む友よりの電話わが避難所に
原発の町には永久に帰れぬといふ言葉は刺さる難民われらに
わが町の天地に満つる放射能を固めて捨つる手だてはなきか
原発に追はれ解体せし母校甲子園にも三度ゆきしに（※県立双葉高校のこと）
一時帰宅に帰ればわが家の軒下に飼犬は死せり繋がれしまま
ふるさとを帰還困難区域などと軽く言ひたり原発相は
避難地のスーパードに於てわが生徒とゆくりなく会ひ手を握り合ふ
一時帰宅に完全防備服まとひつつ共なる妻の表情固し
原発に追はれて小さき住宅に押し込められぬ怒れよ怒れ
夕どきのテレビに出たり驚きの二百歳夫婦と呼ばれて父母は
わが丈をはるかに越ゆる雑草を分けわけて入る無人のわが家に
デイケアに出かけむ母は百二歳あれよこれよと衣服替へをり
自らのシベリア抑留織り交ぜて百歳の父震災を語り
憲法の九条守れ子や孫をかの戦場へゆかしむなゆめ
ふるさとを逐はれて狭き仮宿に小声に豆撒く節分の夜を



◇吉田さんは、1936（昭和11）年大熊町生まれの77歳。県立高校英語科教諭を経て、いわき明星大に勤務されました。◇吉田さんの戦争体験「戦争は悪だ」は本会の会報No.156(2010.12.25)に、さらに原発事故後の避難の様子はNo.167(2011.7.30)に掲載され、ホームページ＜[はらまち九条の会](#) 検索・会報誌＞でご覧になれます。◇ご家族は会津若松市に避難され、百二歳・百三歳の
お元気なご両親と奥様、お子さんやお孫さんら九人で、新聞やテレビなどで広くご紹介されています。
◇今年4月、喜寿記念として出版されたこの『歌集 故郷喪失』は、現代短歌社から発売中です。

あべこべ言葉は安倍こべ言葉？ アベノミクスはアベコベミクス？＜6月18日『朝日新聞』参照＞

●安倍首相の言葉は「あべこべ言葉」が大変多い。●本来『積極的平和主義』は、ノルウェーの平和学者ヨハン・ガルトゥングさんが世界に広めた考え方で、戦争という直接的な暴力のない状態を「消極的平和」、さらに貧困や差別を取り除いた状態を「積極的平和」と定義し、その実現を目指すことを唱えたそうです。●「必要最小限度」「防衛装備移転」「後方支援」「集団安全保障」「成長戦略」なども、ごまかし言葉です。●そういえば、原発事故後の「警戒区域」は誰が警戒するのか、原町区の「避難指示解除準備区域」や「帰還困難区域」も、責任の所在を曖昧にする政府や官僚たちのするい巧妙な表現です。

